

— 令和4年度全国学力・学習状況調査 —
気仙沼市の結果概要と今後の対応について

1 調査の目的

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・ 本市の学校における教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の概要

- (1) 調査実施日 令和4年4月19日(火)
- (2) 調査対象 小学校第6学年全児童(13校:358人)、中学校第3学年全生徒(10校:396人)
 *小学校1校は新型コロナウイルス感染症の影響で別日に実施したため参考値扱い
- (3) 調査内容 教科に関する調査(国語, 算数・数学, 理科), 児童生徒質問紙調査

3 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

年度によって問題の特性や難易度, 対象者や対象者数が異なることから, 単純に平均正答率だけで経年比較が難しい状況にあり, 今年度, 宮城教育大学の協力を得て, より精度の高い分析を試みました。

① 平均正答率の推移

対象	教科	年度	気仙沼市 平均正答率 (%)	宮城県 (仙台市を除く) 平均正答率 (%)	仙台市 平均正答率 (%)	全国 平均正答率 (%)	全国とのかい離 (ポイント)
小学校	国語	R4	62	62	65	66	-4
		R3	61	62	65	65	-4
		H31	62	61	63	64	-2
	算数	R4	56	58	62	63	-7
		R3	65	66	70	70	-5
		H31	63	64	67	67	-4
	理科	R4	59	60	63	63	-4
		H30	60	57		60	0
中学校	国語	R4	70	68	71	69	1
		R3	66	63	68	65	1
		H31	72	71	77	73	-1
	数学	R4	43	45	53	51	-8
		R3	55	52	60	57	-2
		H31	58	55	63	60	-2
	理科	R4	48	47	53	49	-1
		H30	66	64		66	0

- ・ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため未実施。
- ・ 理科は平成24年度から3年に1度程度実施。

○ 効果量^{*1}による全国との比較

小学校国語-0.152, 算数-0.306, 理科-0.211, 中学校国語+0.034, 数学-0.361, 理科-0.098 となります。

※1 全国集団と本市集団の得点分布がどれくらい重なっているかを示す値で, サンプル数や測定単位に依存しない効果の程度を示す指標です。+(-)の値が大きいくほど集団間の重なりが少なく, 差があることを意味します。宮城教育大学の研究等から, ±0.5ないし±0.4より離れていれば「差がある」と評価し, それ未満を「差はない」と評価します。

② 結果の分析と対策 ◇…比較的できている点 ◆…課題のある点
 ア 小学校6年生 (以下「小6」と記す。)

国語	全体	平均正答率では、過去3回の調査とも全国をやや下回り、県と同等です。 効果量からは、全国と差がないといえます。
	問題別	◇ 相手が伝えたいことや自分が聞きたいことを捉えて考えを持つことや読みやすく行の中心を意識して文字を書くことが大切だと理解している児童が多い。 ◆ 文章全体の構成などに着目して、文章を整えることに課題があります。伝える相手や目的を明らかにして、推敲する必要性を実感して書く活動を取り入れます。
算数	全体	平均正答率では、過去3回の調査とも全国を下回り、県と同等です。 効果量からは、全国と差はないといえますが、マイナスの値が徐々に大きくなっています。
	問題別	◇ 整数の乗法の計算をすることができる児童の割合が高くなっています。 ◆ 目的に応じてデータの特徴を捉え考察することに課題があります。筋道を立てて考察することや、出した結論を別の観点で見直す活動を意識した指導を行います。
理科	全体	平均正答率では、前は全国と同等でしたが、今回は全国をやや下回り、県と同等です。 効果量からは、全国と差がないといえます。
	問題別	◇ 昆虫の観察の視点を基に、問題解決のために自分の考えをもつことができる児童の割合が高く、指導の成果が表れています。 ◆ 実験のまとめで、科学的な考えをもつことに課題があります。実験の結果と予想とを照らし合わせて検討し、妥当な考えを創り出す場面を設定します。

イ 中学校3年生 (以下「中3」と記す。)

国語	全体	平均正答率、効果量の両面から過去3回の調査とも全国、県と同等といえます。
	問題別	◇ 比喩などの表現の技法を使うことができる生徒の割合が高くなっています。 ◇ 行書の特徴や書き方を理解している生徒の割合が高くなっています。 ◆ 場面の展開や心情の変化を捉えることに課題があります。心情を表す言葉を取り上げたり、叙述の細やかな違いを考えたりする活動を取り入れます。
数学	全体	平均正答率では、過去2回は全国と同等でしたが、今回は下回りました。 効果量からは、過去3回とも全国との差はないといえますが、マイナスの値が大きく、全体的に低い傾向にあります。
	問題別	◇ 確率の意味を理解している生徒は多いのですが、データの活用については今後コンピュータ等を利用したデータ整理なども取り入れていきます。 ◆ 素因数分解や連立二元一次方程式など「数と式」に関する領域に課題があります。整数を約数の積に表す活動や、素数の意味を確認したりする場面を設定します。 ◆ 文字や式を用いて問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明する活動を取り入れます。
理科	全体	平均正答率、効果量の両面から、2回とも全国、県と同等といえます
	問題別	◇ 日常生活や社会の中での静電気に関する知識及び技能を活用できる生徒の割合が高くなっています。 ◆ ばねについて、力の働きに関する知識及び技能に課題があります。物体に力を働かせる実験を行い、力の大きさや向きなどを説明する活動を取り入れます。

ウ 全体を通して

記述式の問題では、無解答率が高いことから、日常的に自分の意見を表現する機会を増やし、間違うことを怖がらなくてよい学級づくりを意識します。

(2) 児童生徒質問紙調査

質問事項を「非認知能力」「対話・探究活動の充実度」「授業充実度」「学力との相関が強い事項」に分類し、カテゴリーごとに分析しました。また、今年度から相関係数※²に基づく分析も試みました。

※² 2つの項目の間の何らかの関係性を示す指標で、値が大きいほど強い相関があります。

0.0～0.2 ほとんど相関がない 0.2～0.4 弱い相関がある 0.4～0.7 中程度の相関がある 0.7～1.0 強い相関がある

① 各項目の成果と課題 * 枠内の数字は肯定的に回答した児童生徒の割合〔%〕

ア 非認知能力

- ・肯定的に回答した児童生徒の割合は、小6は全国をやや下回り、中3は全国とほぼ同等です。
- ・過去3回の調査では、小6は顕著な変化は見られませんでした。中3は年々上昇しています。

質問事項	小学校			中学校		
	気仙沼市	全国	市一全国	気仙沼市	全国	市一全国
自分には、よいところがあると思いますか	76.5	79.3	-2.8	71.9	78.5	-6.6
将来の夢や目標を持っていますか	78.8	79.8	-1.0	71.2	67.3	3.9
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	71.8	72.5	-0.7	63.7	67.1	-3.4
人が困っているときは、進んで助けていますか	86.9	88.9	-2.0	88.0	88.4	-0.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	94.9	96.8	-1.9	95.7	96.4	-0.7
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.3	95.1	0.2	97.7	95.0	2.7
学校に行くのは楽しいと思いますか	83.8	85.4	-1.6	86.7	82.9	3.8
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	53.9	51.3	2.6	57.9	40.7	17.2

- ◇ 人の役に立ちたい、地域や社会をよくしたいという思いや意欲をもった児童生徒が多いことから、その実現に向けた話し合いや行動ができる場をより多く設定し、更なる向上につなげていきます。
- ◆ 自己肯定感が昨年度よりも上がっていますが、小中ともに依然として全国より低い値です。教師が児童生徒のよさを積極的に認め、自己肯定感を高める積極的な関わりを一層進めます。

イ 対話・探究活動の充実度

- ・肯定的に回答した児童生徒の割合は、小6は全国と同等で、中3はすべての質問事項で全国を上回っています。
- ・過去3回の調査で小6はほぼ変化はありませんでしたが、中3は大きく上昇しました。

質問事項	小学校			中学校		
	気仙沼市	全国	市一全国	気仙沼市	全国	市一全国
5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の相立てなどを工夫して発表していましたか	69.9	65.4	4.5	77.4	63.3	14.1
5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	76.6	77.3	-0.7	81.5	79.2	2.3
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	79.1	80.1	-1.0	81.4	78.7	2.7
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	80.2	72.7	7.5	87.5	72.1	15.4
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	67.3	73.5	-6.2	81.7	76.8	4.9
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	72.4	73.8	-1.4	77.7	71.7	6.0

- ◇ 総合的な学習の時間での探究活動の充実度が小中ともに全国より高い値です。これまで本市が注力してきたESDや現在進めている個人探究学習の成果と推察されます。
対話・探究活動と非認知能力の相関係数は過去3回の平均が0.62、授業充実度とは0.41と、中程度の相関があります。また、対話・探究活動と学力の相関係数は、小学校国語でR4が0.34（H31:0.24）、算数0.27（0.22）、中学校国語0.27（0.18）、数学0.21（0.18）と相関が強まる傾向にあります。対話・探究活動の充実や深まりが非認知能力や学力に相関することが分かりましたので、より良い対話・探究活動を追求し、さらに学力の向上につなげていきます。
- ◆ 小6の話し合いに課題がみられます。意見を出し合い、互いの意見のよさを生かして合意形成できるように、話し合うことの有効さを実感できる言語活動を取り入れていきます。

ウ 授業充実度

- ・小6は、国語においては全国と同等ですが、算数ではやや下回っています。中3国語の授業充実度は全国を大きく上回り、数学の授業充実度はやや上回りました。
- ・過去3回の調査結果で小6は国語、算数ともに変化はほぼ認められませんでした。中3の数学の充実度はほぼ変化ありませんでした。国語の充実度は年々上がっています。

質問事項	小学校			中学校		
	気仙沼市	全国	市-全国	気仙沼市	全国	市-全国
国語の勉強は好きですか	66.7	59.2	7.5	76.0	61.9	14.1
国語の勉強は大切だと思いますか	92.5	93.3	-0.8	95.5	93.2	2.3
国語の授業の内容はよく分かりますか	83.8	84.0	-0.2	88.7	81.2	7.5
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.4	91.8	-0.4	94.0	89.7	4.3
算数（数学）の勉強は好きですか	65.3	62.5	2.8	60.1	58.1	2.0
算数（数学）の勉強は大切だと思いますか	95.2	94.2	1.0	88.2	86.6	1.6
算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	80.4	81.2	-0.8	81.5	76.2	5.3
算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.9	93.3	-1.4	75.7	76.5	-0.8

- ◇ 児童生徒は国語、算数・数学の授業を好意的に受け止め、特に中3の国語はかなり高い充実度となっています。今後も学習することがおもしろいと実感できる授業改善に一層努めます。
- ◆ 算数・数学の有益性を感じている児童生徒が少ないことから、問題の正誤だけではなく、実生活とのつながりを考える工夫を行っていきます。
- ◆ 誤答した場面で、なぜ間違ったのか、どこにつまずきがあるのかを児童生徒と一緒に確かめながら、その原因を明らかにして、活用できる知識形成に努めます。

エ その他の質問事項（学力との相関が強い質問事項）

- ◇ 毎日朝食を食べることや起床・就寝時刻が決まっている児童生徒の割合が高く、家庭での生活リズムが概ね整っています。「毎日朝食を食べている」と回答した児童生徒と「全く食べていない」と回答した児童生徒との平均正答率には大きな開きがありました。引き続き家庭と連携し、学習に向かうための土台づくりに努めていきます。
- ◇ 読書を「全くしない」より「1時間以上している」と回答した児童生徒の方が、すべての教科で平均正答率が上回っています。本市では「全く読まない」と回答した児童生徒の割合が少なく、日常的に本に触れているため、さらに読書の励行と読書のジャンル拡充を図っていきます。
- ◆ 平日1日当たりゲームを3時間以上している小6が33.8%、中3が24.1%でした。ゲームを1日当たり3時間以上している児童生徒と3時間未満の児童生徒の平均正答率を比較したところ、3時間以上している児童生徒がすべての教科の平均正答率で下回りました。
また、平日、学校以外での学習時間（家庭学習や塾等）が1時間未満の小6が32.9%、中3は24.5%でした。学校以外での学習時間が1時間以上の児童生徒と1時間未満の児童生徒の平均正答率を比較したところ、1時間未満の児童生徒がすべての教科の平均正答率で下回りました。
長時間のスマートフォンの利用は学力だけではなく、発達や睡眠習慣への影響があるといわれています。ゲームの利用時間や家庭での学習時間の確保については学校だけではなく、家庭と課題を共有して改善に取り組んでいきます。

（１）学習状況改善事業（県学力向上マネジメント支援事業）等の取組

- ① 学校と教育委員会の担当で組織する「気仙沼市学習状況改善検討委員会」で、学力向上に向けた具体的な方策を検討、推進します。その方策の有効性を検証するために年2回（4月、12月）の標準学力調査を全小中学校で行い、個々の伸びを確認するとともに、つまずきや課題は年度末に学び直しの期間を設定して補充します。
- ② 県学力向上マネジメントアドバイザーと県、市指導主事が市内すべての小中学校を定期訪問（各学校年間5回）し、取組状況を把握し、指導助言を行います。
- ③ 本市が推進してきたE S Dを含む対話・探究活動の充実が非認知能力を押し上げていることから、引き続き地域素材を生かし、大学等との連携を図って、より充実した活動を目指します。また、対話・探究活動を各教科の授業でも積極的に取り入れ、言語活動を重視した授業づくりを推進し、非認知能力と学力の一体的な向上を図ります。

（２）教科指導力の向上と校内研修の工夫

- ① 算数・数学、英語の授業改善を重点目標とした校内研修を充実します。さらに、義務教育9年間を見通した指導を強化するために、近隣の小中学校合同で教員研修をしやすいように月1回、市内一斉研修日を設定し、授業づくりや指導方法の研究や情報交換を行います。
- ② 授業や家庭学習でのI C Tの活用をさらに進め、個別最適な学びを推進します。
- ③ 市教育研究員により一時間だけではなく、単元計画を中心とした授業改善モデルを開発し、それを市内小中学校と共有して、各学校での取組の事例とします。
- ④ 児童生徒の高い意欲を確かな学力に結び付けるために、身に付けさせたい資質・能力を教師自身が十分に意識し、指導を工夫するなど一層の授業内容の充実に努めます。

（３）算数・数学の積み上げ

- ① 児童生徒の疑問や意見を丁寧に取り上げるとともに、学習内容が自分の将来や生活につながっていることを実感できるような工夫を行います。
- ② 児童生徒が問題の意図や情報を図表などを用いて思考する時間を十分に確保し、誤答したときには、つまずきの原因を追求し、年度内の学び直しや学年を超えた振り返りを充実させます。
- ③ 基礎基本の定着のために、学校や家庭でタブレットドリルの活用を促進し、学習履歴（スタディ・ログ）を基にして、一人一人の状況に合った指導を行います。
- ④ 本調査問題や高校の入試過去問題等の演習を取り入れ、習得した基礎基本を活用する活動に計画的に取り組めます。

（４）個への対応と子供の声や親の思いを大事にする学校、学級づくり

- ① 教職員が児童生徒と向き合い、児童生徒に寄り添いながら、励ますなど、時機を捉えた積極的な評価や関わりを大切にします。
- ② 保護者等と連携して、個別の対応を必要とする児童生徒にとってよりよい環境を構築します。
- ③ 自律的な学級を醸成するために児童生徒の考えや思いを生かした学級づくりを進めます。

（５）望ましい生活習慣と学習習慣づくり

- ① 「早寝・早起き・朝ごはん」を家庭にも働きかけ、理解と協力を得ながら規則正しい生活習慣の確立を目指します。
- ② 生徒会や各学級、家庭でスマホやゲームの使い方を話し合ったり、学校と家庭で連携してノーメディアデーを設定したり、SNSやゲームを適切に利用できる力等を身に付けさせます。
- ③ 家庭学習の習慣化を指導します。従来のノート学習に加え、自分の合った問題を選択しやすいタブレットドリルの活用、授業と連動した家庭学習など、家庭学習の質の向上を目指します。
- ④ 学力が高い児童生徒は本や新聞を読んでいる傾向があります。読解力や表現力、感性などを高める読書の機会や時間を確保し、読書の習慣化を進めます。
- ⑤ 感染症への不安や悩みに対する正しい知識を身に付けさせ、適度な運動を取り入れながら、安定した生活を目指します。